

創立

120周年記念

特集号

創立 120周年 繋ぐ ～120年の誇りを未来へ～



人文字デザイン：小林英次先生、3年 末永菜伎さん、中島千瑞沙さん原案作成

校 訓

向

進

誠

禮

上

取

實

儀

伝統の継承と新たななる挑戦

校長 長田 文生



本年、創立百二十周年を迎えた本校は、明治二十六年九月、地域の熱い期待を担って、私立中津尋常中学校として開校、以来明治・大正・昭和と激動の時代を乗り越え、幾多の歴史の試練にも耐え、東北中等教育の中心校として発展を遂げてまいりました。本日ここに創立百二十周年を迎えることができ、また、偏に皆様方のご支援の賜と感謝申し上げます。

これまでの一世紀を超える歴史の中で、建学の精神である「独立自尊」、校訓である「礼儀誠実進取向上」の理念は、絶えることなく脈々と受け継がれてきました。この間、人生の黎明期とも言えるべき多感な青春時代を、本校で過ごした卒業生は二万八千名を超え、我が国はもとより世界を舞台に幅広く活躍されています。各界でご活躍される先輩方の姿は、在校生にとつて誇りとなり目標ともなっています。創立以来、本校に課せられた普通科進学校としての使命は、これまで在職した教職員の教育に対する熱意と生徒の弛まぬ努力により、

見事、果たされてまいりました。近年では平成十七年度から本県教育委員会より進学拠点校としての指定を受け、進学力向上のための各種施策が実施され、これまで以上に輝かしい実績を挙げることでできています。一方で生徒会活動や部活動、ボランティア活動など特別活動の分野でも目覚ましい成果を収め、一人一人の持っている能力や可能性を伸ばし、「知・徳・体」の調和のとれた教育を推進してまいりました。

をもつて全て完了し、現在では県下で最も近代的な学舎へと刷新され、在校生は快適な学習環境の中で充実した高校生活を送ることができています。私ども教職員は、百二十周年を契機に改めて本校の歴史と伝統に学び、本校がこれまで担ってきた役割を自覚するとともに、本校の一層の発展のため一丸となつて邁進することをお誓い申し上げます。結びに、今日までご支援・ご鞭撻を頂いた同窓生の方々をはじめ、PTA会員、地域の方々、また中津南高校に心を寄せて頂いた各界の関係各位に心からお礼を申し上げます。さらなるお引き立てをお願いし、創立百二十周年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。

新たな伝統と歴史を

P T A 会長 広 津 義 己



創立百二十周年という輝かしい歴史の節目を迎え、P T A 会員を代表して、心からお慶び申し上げます。

百二十年というのは県下の高校では二番目の古さであり、記念式典当日講演をして下さる元陸上幕僚長の火箱芳文氏、また「里帰り授

業」で講師をされる十五名の方々を始め様々な分野で多くの先輩方を輩出してきました。

ただ、古ければいいというものでもありません。温故知新というように、今までの伝統をふまえつつもイノベーションが必要です。旧制中津中学校の校訓は「質実剛健 自発進取」、本校の校訓は「礼儀、誠実、進取、向上」。この中で二校共に「進取」が採用されています。「進取」とは「自ら進んで物事に取り組

む事、今までの慣習にとらわれず、意欲的に新しい事をすること」です。現状に満足するのではなくよりよい進化を続けていくと言うことが大事だと思えます。

数年前から校舎の改築が始まり、今年の二月の体育館の竣工、塀の白壁化をもつて一通りの工事が終わりました。私が高校三十二回生として入学した時の校舎や体育館、すべてが新しくなっています。建物は耐用年数がすぎれば取り壊して、新しい

ものに替わっていきます。しかし人の思いや伝統と言うものは消え去って行くものではありません。これから五十年、二百年と先輩方の残したものを心に残しつつ、新たな伝統を作り上げていかなければならないと思います。

私たちは、たまたま縁あって中津南高等学校の百二十周年に保護者として、教職員として、また生徒として身を置いています。輝かしい歴史を誇りとし、脈々と伝わる校風を大切にしながら一歩一歩前に進んでいきたいと思えます。本校の更なる発展を、P T A 会員一同心からお祈り申し上げます。

創立百二十周年を迎えて



同窓会長 和田 仁人

です。また、教室棟・体育館・管理棟等が百二十周年に合わせる様に全て新築されました。旧国道十号線沿いに正門の左右の塀が城下町風情の白壁になりました。正門より入ると体育館に沿ってポプラの植樹をし、数年後には本校のシンボルが再現されることでしょう。新体育館の綴帳も今までより大きく新調しました。八面山、山国川をイメージしたバックに若人が躍動するデザインで新鮮さを感じます。一方、新校舎内では吹奏楽部やかたるた部をはじめ、文化部活動に精一杯頑張っている生徒の姿が目

にとまり、グラウンドでは野球部、サッカー部、テニス部等が活発に練習しています。長田校長曰く「東大合格は最難関であるが、スポーツでは全国大会、特に甲子園への出場は一層難しい」。関東、関西支部同窓会に参加すると同窓の先輩諸氏より校長は「甲子園目ざせ」と発破を掛けられています。在校生への里帰り授業では、講師十五名中五名の同窓生講師を関東支部より派遣していただきます。生徒には進路の指針となることでしょう。十月五日の式典前後十月三日〜七日には学校に寄贈された所

蔵絵画や同窓生絵画、図書館の貴重図書、明治初期の英語辞典、トキの剥製等美術絵画展を中津文化会館で催します。一般の方々も見学鑑賞が出来ます。この様に少ない予算ではありますが、目一杯の催しを予定しています。それから現在、支部同窓会は関東、関西を中心に活動していますが、中京、福岡、大分はお世話される方が高齢で中断しています。是非復活したいと思っています。一方、喜ばしいことに北九州支部は若いメンバーが主体となって今夏再起いたしました。大歓迎です。この普段からの活動が南高、同窓会の発展に繋がりを継続されるものと思っております。皆様のご協力と合わせてご健康を祈念して挨拶いたします。

創立百二十周年を迎え、十年毎の通過点と言えども記念事業を予算一千万円で計画致しました。その一つがこの記念新聞の発行です。在校生にとってはこの百二十周年の節目に在籍し、一年生は入学、三年生は卒業と思いで出るに残る年となることでしょう。そして我々同窓生は記念の年としていろいろな行事に参加していただければ幸い

120年の歩み

～校舎今昔物語～

昨年から続いていた工事が終了し、今年2月に本校体育館が完成しました。平成23年には新校舎が誕生しましたが、新しい体育館が完成したことで、ようやく管理棟・教室棟・体育館が揃う形となりました。120周年という節目の年に、中津南高校は新たな一歩を踏み出すことになります。

中津南高校は、明治26(1893)年に建設されて以来、多くの施設・設備が建築あるいは解体されてきました。ここでは、懐かしい校舎の写真の数々と現在の校舎の姿を紹介します。

大分県立中津中学校校歌

一 その名も高し英彦山 三 希望の光かがやきて

葉末の露のしたゝりて 自身の力いやつよし

耶馬仙溪の水となり 桑弧蓬矢の志

注いで周防の灘に入る 夢寐の間も忘れず

昼夜をやめずこんゝと 精神一度奮ひなば

つきぎる例君見ずや 千艱万苦も何のその

二 寸陰積りて年をなす 四 独立自尊の教訓を

一年三百有余日 垂れし先覚今何処

火雲赫たる夏の日も 幽明境をへだつれど

寒風凜たる冬の夜も 偉人の跡ぞしのばるる

不断の二字を心頭に 見よその功は山高く

刻みて前程進まばや 見よその徳は水長し

大分県立中津南高等学校校歌

一

英彦の峰の気を負いて
青春の空呼ぶところ
ここ沖代の学び舎に
希望の光満ちわたる
中津南高純情の
花今開く庭
自治の庭

二

心の友よ山国よ
注ぎて清し周防灘
ああ大洋を望みては
果てなき夢を描くもの
自由の先駆福翁の
意気今燃えて
我が胸に

三

開けよ扇咲けよ花
人生の春謳うべし
友情厚き友あまた
集いて日々に進みゆく
中津南高感激の
歌今ひびく
我が母校

中津南高校の沿革

明治26（一八九三）年9月 中津尋常中学校（私立）を下毛

郡中津町三ノ丁に建て

明治27（一八九四）年4月 大分県尋常中学校の分校とな

り10月現在地に新築

明治30（一八九七）年4月 県立中津尋常中学校となり宇

佐に分校を設ける

明治34（一九〇一）年9月 大分県立中津中学校と改称

する

大正9（一九二〇）年11月 11月13日皇太子殿下御来校

大正15（一九二六）年1月 北館完成武道場落成

12月 南館落成

昭和9（一九三四）年8月 皇太子殿下御誕生記念図書館

落成

昭和18（一九四三）年12月 50周年記念事業として体育館

完成

昭和23（一九四八）年4月 新学制により大分県立中津第

一高等学校となる

昭和24（一九四九）年4月 大分県立中津第一高等学校本

部を置き課長制を布く

（旧中学校を南校舎、旧高女を

北校舎と称する）

昭和26（一九五二）年4月 大分県立中津西高等学校と改

称し、課長制を廃し教頭、庶務

主任、定時制主事を置く

昭和28（一九五三）年4月 南（旧中学）北（旧高女）校舎そ

れぞれ分離独立し南校舎を大

分県立中津南高等学校と改称

する

昭和35(一九六〇)年1月 70周年記念事業の一つとして
弓道場完成

昭和36(一九六一)年4月 北館、宿直室等焼失

昭和37(一九六二)年8月 鉄筋2階建管理棟同3階建南
館完成

昭和38(一九六三)年8月 鉄筋5階建北館普通教室24室
完成

昭和40(一九六五)年4月 下毛分校分離独立して大分県
立耶馬溪高等学校となる

昭和41(一九六六)年2月 体育館兼講堂完成

3月 創立70周年記念並びに体育館
落成記念式典挙行

8月 国体記念事業、前庭園、正門
完成

昭和42(一九六七)年6月 第5期南館特別教室竣工

昭和48(一九七三)年10月 80周年記念行事

昭和58(一九八三)年3月 柔剣道場完成

9月 90周年記念式典並びに記念
行事

平成元(一九八九)年9月 特別教室棟大規模改造

平成2(一九九〇)年9月 普通教室棟大規模改造(外構)

平成3(一九九一)年8月 普通教室棟大規模改造(内部)

平成4(一九九二)年9月 管理棟大規模改造

平成5(一九九三)年9月 創立100周年記念式典挙行

平成6(一九九四)年3月 セミナーハウス完成

平成15(二〇〇三)年8月 創立110周年記念庭園完成
9月 創立110周年記念式典・記念
行事

平成19(二〇〇七)年4月 耶馬溪高校を分校とする

平成22(二〇一〇)年2月 管理棟改築

平成23(二〇一一年)12月 教室棟・特別教室棟改築

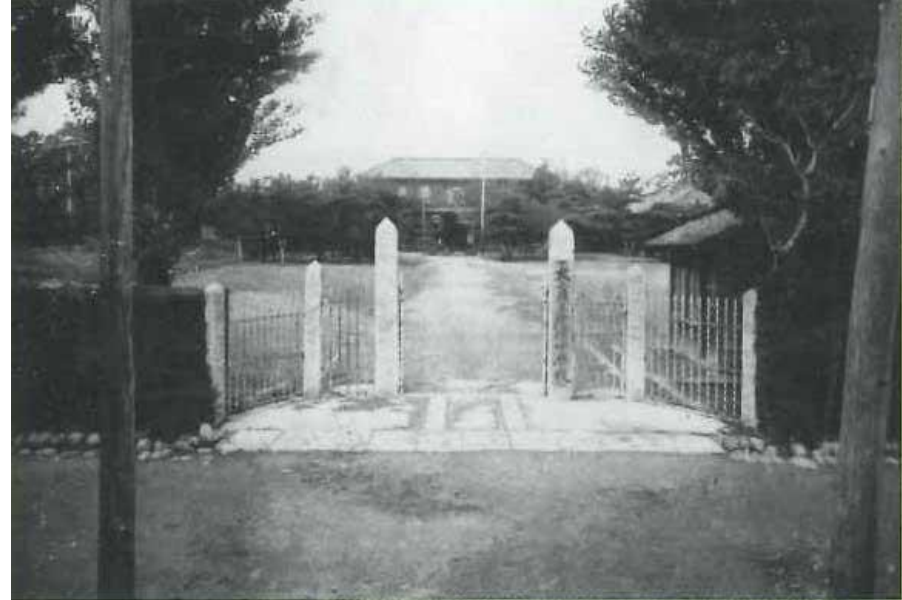
平成24(二〇一二)年8月 自転車置場改築・テニスコート
移設・庭園(裏庭)整備工事
完成

平成25(二〇一三年)3月 体育館新築工事完成

白壁(ブロック塀改修)工事完成



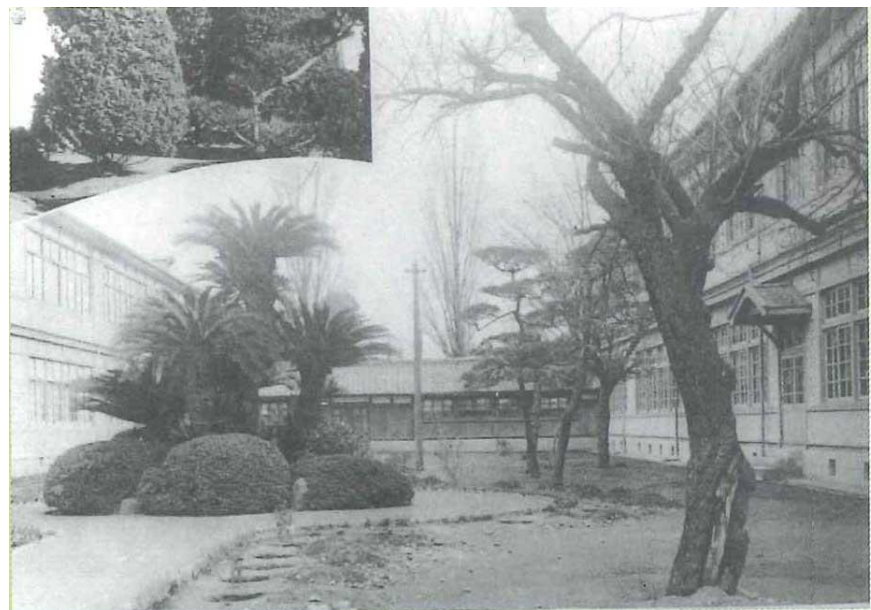
明治30年 大分県中津尋常中学校の分校を宇佐に設置(現在の宇佐高校の前身)



旧正門(現在の東門) 校舎は大正15年までの本館



昭和19年 授業風景



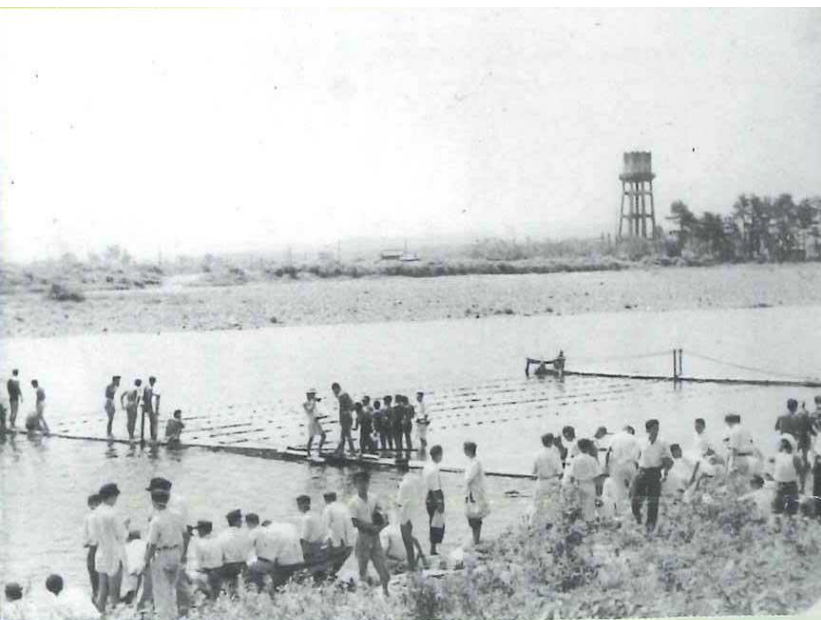
昭和14年頃 中庭のソテツ(現在移動して体育館前へ)



昭和15年 図書室の内部



昭和23年 新学制により旧中津高等女学校合併



昭和24年 山国川自然プール(福岡側から)



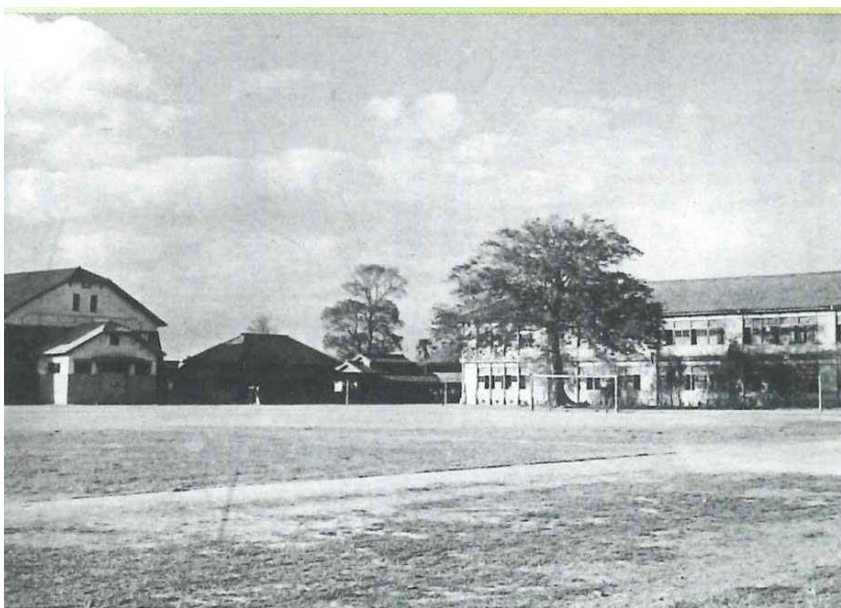
北校舎(旧中津高等女学校)正門



昭和30年頃 家庭科教室と体育館の間をテニスコートにする



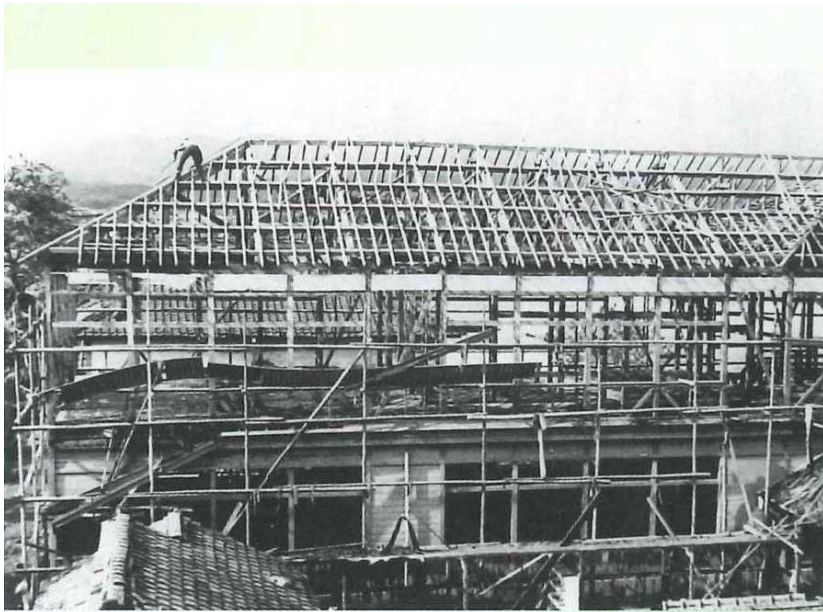
昭和35年頃 中庭と北館（向こう2教室が職員室）



昭和37年 体育館・南館



昭和37年 第一期工事中の管理棟（中央の巨木は火災で傷んだユーカリ）



昭和40年 南館の解体



昭和40年 下毛分校 管理棟建築 独立して耶馬溪高校となる



昭和41年 正門



旧校舎(昭和42年に改築)の教室



旧校舎(廊下)



旧校舎の生徒昇降口前(中央は藤棚)



平成22年 旧校舎解体後の発掘調査(土器や竪穴住居跡を発掘)



特別教室棟（解体前）



平成24年 特別教室棟の解体



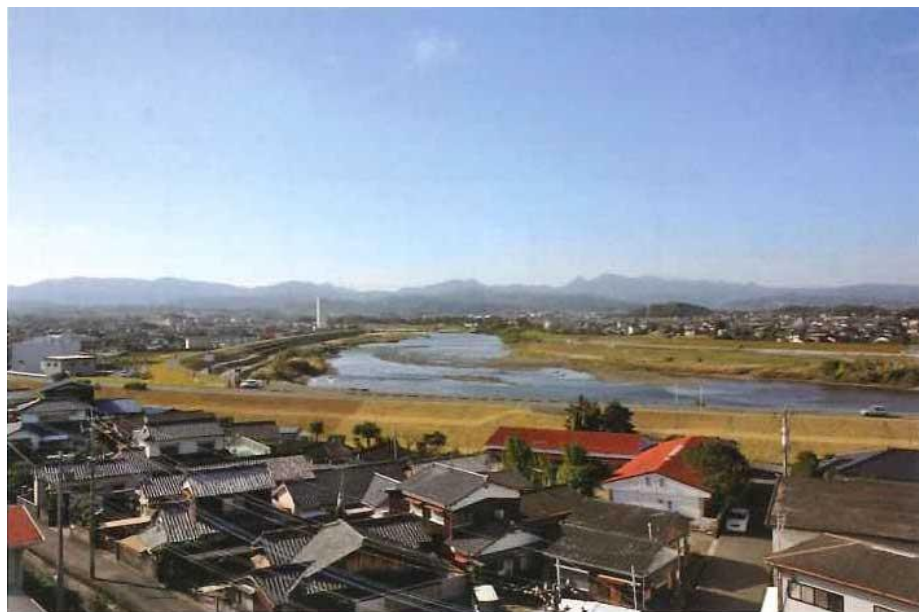
プレハブ校舎 新校舎建築中の間、教室棟として使用（現在のテニスコート付近に設置）



平成23年 特別教室棟の解体にともない、荷物を移動



新校舎と桜



新校舎4階から見た山国川



新しい教室



新校舎の木製の床



平成24年 体育館の改築工事開始



新 体 育 館



平成25年 ブロック塀を白壁に改築



新校舎の完成

「人材輩出校」を目指して

進路指導主任 御 幡 忠 美



創立百二十周年を迎える本校は、生徒数・学級数が各学年五クラスの全十五クラス六百名という、中津南高等学校になってからは最小の体制になっているが、「日本で、世界で活躍する人材の輩出校」を目指して進路指導を行い、県北の進学校としてここ二十年間でも年平均百二十五人の国立・公立大学合格者を送り出している。

本校の進路指導は、最も大切な人間力の養成を目的に一年次から二年次まで計画的に行っており、最初は入学した翌週に実施される三泊四日の教育合宿から始まる。ここでは、考え方を中学生から高校生に切り替えるための活動を組んでいる。マナー講習から始まり、高校での学習の仕方をシミュレーションする学習オリエンテーション、学力養成に最も大切な自学の

練習、人としての行動力を高める集団訓練や校歌練習などを行う。入学したばかりで中学生気分が抜け切れず集団行動がうまくできない生徒たちが、この合宿を経験して見違えるように行動できるようになる。それ以降、三年間を通して進路指導を段階的に行っているが、最も大きな特徴は、学習指導要領で新たに導入された週一回の「総合的な学習の時間」を行う進路学習である。一年次の学部・学科研究から、三年次の進路研究まで、段階的に進路学習を行っている。その成果は、一年次の文理選択や二年次の類型選択、三年次の志望校選択に生かされている。

また、学力養成では、授業日の十日間増加、朝講座、土曜講座、夏季補習など様々な取組を行っている。授業日の増加は、平成十八年度の県教委の通達を受けて本校でも夏休み中に十日間授業日を設定した。土曜講座は、学校週五日制完全実施に伴って、生徒の学力保障の観点から平成十四年度に導入し、毎月第一・第三土曜日に七十分間×三限で実

施している。土曜講座では、応用力の養成を目標に、一、二年生は授業と同じ科目で、三年生は希望講座制で実施している。過去行っていた平日の補習は、平成十九年度に週三十四時間授業になるとともに取り止めたが、県内・県外の進学校と同等の授業時間数の確保を目的に同年より朝講座を導入し、毎朝七時五十分から四十分間実施している。朝講座では、基礎・基本の定着を目標に授業の補充や問題練習などを行っている。

以上のように、本校では「人材輩出校」を目指して、人間力を養うための新たな取り組みや様々な改善を行い、よりよい進路指導に努めている。



部活動実績

全国、九州大会出場部活動（過去3年間）

	九州大会	全国大会
22年度	(囲碁・将棋) 全九州高等学校囲碁選手権 準優勝 (弓道) 九州高等学校新人弓道選手権大会 (水泳) 全九州高等学校体育大会 全九州高等学校新人水泳競技大会	(かるた) 全国高等学校小倉百人一首かるた大会 全国高等学校総合文化祭 (囲碁・将棋) 全国高等学校囲碁選手権大会 (水泳) 全国高等学校総合体育大会
23年度	(陸上) 全九州高等学校新人陸上競技大会 (水泳) 全九州高等学校水泳競技大会 全九州高等学校新人水泳競技大会 (弓道) 九州高等学校弓道新人選手権大会 (文芸) 九州高文連文芸大会 (囲碁・将棋) 全九州高等学校囲碁選手権大会 優勝	(水泳) 全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 国民体育大会 水泳競技 (文芸) 全国高等学校総合文化祭 (囲碁・将棋) 全国高等学校囲碁選手権大会 全国高等学校合文化祭 囲碁部門
24年度	(陸上) 高校総体北九州4県対抗戦 (水泳) 全九州高等学校水泳競技大会 全九州高等学校新人水泳競技大会 (空手) 全九州高等学校新人空手大会 (女子バスケット) 全九州高等学校春季選手権大会 (卓球) 全九州高等学校新人卓球大会 (文芸) 九州高文連文芸大会 (弓道) 全九州高等学校新人弓道大会	(卓球) 全国高等学校卓球選手権大会 (文芸) 全国高等学校総合文化祭 (かるた) 全国高等学校小倉百人一首かるた大会 全国高等学校総合文化祭 (囲碁・将棋) 全国高等学校囲碁選手権大会 全国高等学校総合文化祭 囲碁部門



弓道



サッカー



ESS



科学



囲碁・将棋



テニス



書道



演劇



バスケットボール



水泳



剣道



卓球



吹奏楽



柔道



茶道



陸上



野球



かるた

創立 百二十周年に寄せて

『今、私たちがすべきこと』



3年1組
磯永 翔一

中津南高校創立百二十周年というこの記念すべき節目の年に、本校に在籍できることを大変誇りに思います。本校が、これだけ長い歴史を築くことができたのは、先生方や地域の方々のご協力の下、数多くの先輩方が日々の活動を懸命に続けてきた結果だと思えます。多くの人々の努力の積み重ねが、この百二十年という歴史を創ってきたのです。

では今、その歴史の上に

立つ私たちがすべきことは何でしょうか。それはやはり、これまでの先輩方がそうしてこられたように、自分たちの毎日を懸命に生きることにだと思えます。服装や挨拶といった生活態度を改善すること、勉強や部活動などで精一杯頑張ること、様々な分野においてそれぞれの目標に向けて頑張ること。それら一つ一つの心掛けや努力が、中津南高校のさらなる発展につながっていくのです。

三年生は今後、進路面で大変な時期となりますが、常に自分が中津南高校の生徒であるということを誇りに思い、精一杯頑張っていきます。

『快適な学習環境に感謝』



2年1組
吉崎 愛実

百二十年という県下でも有数の長い歴史と伝統をもつ中津南高校。今日まで本校を築き上げて下さった全ての先輩方、先生方、保護者の方々に感謝しています。

中津南高校は昨年度、校舎と体育館の建て替えを完全に終えて、新しい綺麗な校舎に生まれ変わりました。教室は明るく、黒板は上下に移動できます。また廊下やホールは板張りで美しく、癒しの空間となっています。さらに各階には学習・質問

スペースが設けられており、多くの生徒が利用しています。このような快適な環境で勉学に励むことができ、ことに感謝し、より一層の努力をしていきたいと思っています。

また百二十周年の記念すべき開扇祭では、来られる方全員に、中津南高校の素晴らしさを知ってもらえるよう、展示内容や環境整備に力を入れています。皆で協力し、感動できる百二十周年の記念行事を目指しています。

最後に、中津南高校で過ごす三年間が、社会に出るから生きていくための糧となるよう、様々なことに失敗を恐れず挑戦し、多くの経験を積み重ねていきたいと思っています。

『入学して感じた中津南高生としての誇り』



1年4組
古賀 千秋

県下で二番目の歴史を持つ中津南高は、今年で創立百二十周年を迎えました。このような節目の年に入学できたことは偶然ですが、素晴らしいことですし、大変嬉しく思います。

これほど長い歴史を築くことは簡単なことではありません。これまでの先輩方の努力、また先生方や保護者の方々、地域の方々の支えがあったからこそできたのだと思います。今の中津

南高があるのもこういった方々のおかげなのです。

入学して約四ヶ月がたちました。想像していた高校生活とは大分違い、課題や小テストに追われる毎日、何度も中学生に戻りたいと思いました。中津南高に入学したことを後悔したこともありました。しかし、七月に行われた南北親善球技大会で真剣に頑張っている先輩方の姿を見て、中津南高生であることがとても誇らしく感じました。

由緒ある中津南高の生徒としての自覚と、周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに持ち、これまで多くの先輩方によって受け継がれた伝統を、次の世代へと繋いでいきたいと思えます。